

特別講座

「徳川家康と大垣」

1、豊臣秀吉の遺言

- ・秀吉は豊臣政権を維持するため、五大老に対して只管、秀頼を盛り立てるように遺言した。

2、石田三成の大垣城入城

- ・三成は秀頼を天下人にするため、正義の戦いと信じて挙兵した。
- ・ただし西軍の総大将は毛利輝元である。
- ・大垣城主伊藤盛正は三成に城を明け渡し、本今に搔き上げの臨時の城を築いて移った。

3、徳川家康の戦略

- ・家康は秀吉の撃に背いて、多くの大名と政略結婚を行い、勢力を培った。
- ・家康は多くの大名に書状を送って自分に味方するよう働きかけた。現在 180 通りの書状が現存する。
- ・上杉征伐の際には秀頼から金 2 万両、米 2 万石を与えられた。

4、大垣城は大事の要の城である。

- ・秀吉は大垣城に兵糧米と兵を常備していた。
- ・東軍の武将も大垣城が天下分け目の戦いの場になると予想していた。

5、東軍は赤坂に本陣を置いた。

- ・東軍は岐阜城を占拠した後、岡山(御勝山)に本陣を置き、大垣城の西軍と対峙した。
- ・赤坂の町人は東軍に味方して町を守り、東軍の勝利を祈願した。

6、大垣城の水攻め

- ・家康は 9 月 朔日に水責めを命じたが、野戦に切り替えた。

7、柿寺

- ・神戸の瑞雲寺住職は家康に柿を献上し、朱印地 10 石を得た。

8、杭瀬川の戦い

- ・家康は 9 月 14 日に岡山に到着し、金扇の馬験を立てた。
- ・西軍の島左近は杭瀬川に出陣し、東軍の 32 人余を倒し、遮那院前で首実検が行われた。
- ・関ヶ原の戦いの前哨戦が福東城、竹鼻城、岐阜城、河渡川で行われ、杭瀬川の戦いは西軍唯一の勝ち戦となった。

9、大垣城の戦い

- ・戦場が関ヶ原に移っても大垣城では 9 月 23 日まで戦いが続いた。
- ・山田去暦の娘おあむ達は敵の首に化粧したり、鉄炮の玉を鋳造していた。
- ・おあむ達は大垣城の堀をたらい舟で渡り、青野ヶ原の方へ逃れた。